



一般社団法人 日本建築学会

東北支部年報

第 41 号

〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉 1-5-15

日本生命仙台勾当台南ビル 4F

TEL 022-265-3404

FAX 022-265-3405

E-mail: aij-tohoku@nth.biglobe.ne.jp

巻頭言

東日本大震災から10年の節目を迎えて

東北支部長 石田 壽一

東日本大震災から10年の節目を迎えました。あらためまして本震災により犠牲になられた多くの方々に哀悼の意を表しますとともに、ご冥福をお祈りいたします。この間、被災地域の復旧・復興計画は順調に進み、一部では記憶の風化や教訓の伝承の難しさが指摘されています。他方、今日尚、3万人以上の方々が避難生活を強いられています。激甚災害の影響の大きさを再認識するとともに、今後も繰り返される自然災害に対する防災・減災対策の進化と教訓の継承について、都市建築の各専門分野の研究者が真摯に取り組み、その成果を社会に還元することこそが、本会の使命と感じております。M9.0の巨大地震の強振動に続く津波の襲来、連鎖的に起きた福島原発事故による放射能汚染を含め、東北地方は世界的に見ても人類が経験したことのない巨大複合災害に直面した先進国の一地方であり、その進化的再生の過程はグローバルにも稀有な事例として注目されています。このことは我が国において本支部の活動エリアが、巨大複合災害に対する最先端の実践的研究フィールドを為しており、今後もレジリエントな都市建築環境について、世界に向けた情報発信が求められる一拠点を為していることに他なりません。2015年に仙台市で開催された国連防災世界会議(WCDRR)において、仙台防災枠組

2015-2030が採択され「より良い復興 Build Back Better」の方針が提唱されました。仙台市は防災環境都市を掲げ、市民を中心に津波被害を含め、多重防災型の生活環境整備に取り組んでいます。本支部も『津波に強い建築を活用した津波減災研究委員会』を設置し、市民講座の開催を検討しています。2015年は国連のもう一つの重要な宣言であるSDGsが採択された年でもあり、建築学会も本年3月に「SDGs建築行動宣言」を提言しています。目標の一つ「ジェンダーの平等」は支部活動「女性会員の会」にも直接関係しており、支部としてもダイバーシティ社会の実現に向けて、積極的に取り組んでいきたいと考えております。

昨年度はコロナ禍で中止となりました東北支部研究報告会ですが、今年度は6月19日、20日の2日間、オンライン形式での開催を予定しております。現行のコロナ感染症対策に留意した結果、オンライン形式での開催となりますが、「みちのく風一山形」では、オンライン環境を活かした企画と実施プログラムについて支部で検討を重ね、「震災復興10年とこれからの10年」と題した東北探訪エクスカージョン・シンポジウムを企画しております。会員の皆様方の日々の研鑽による研究成果を交換する新たな形態の報告会として、多数のご参加をお待ちしております。

もくじ

□巻頭言	1
□企画記事	2
□2020年度司法支援建築会議東北支部活動報告	6
□2020年度日本建築学会設計競技東北支部審査報告	7
□2020年度第83回東北支部研究報告会報告	7
□2020年度第6回東北支部建築デザイン発表会報告	7
□研究部会活動報告	9
□支所だより	12

□支部役員会から	14
□支部役員名簿	16
□2020年度事業報告	17
□2021年度事業計画(案)	19
□法人・賛助会員名簿	21

(1) 災害委員会支部市民企画

「みやぎボイス 2020

～復興検証の検証を望む声～

櫻井 一弥

○企画概要

名 称: 東日本大震災復興シンポジウム「みやぎボイス 2020 ～復興検証の検証を望む声～」

開催日: 2020年10月24日(土) 11:20～18:30

会 場: せんだいメディアテーク 1F オープンスクエ
Zoom 会議

対 象: 一般市民、東日本大震災の復興に関わる地域住民、
行政担当者、大学関係者等

参加者: 205名(うち、130名 Zoom によるオンライン参加)

○背景・目的

「みやぎボイス」は、年に1回、東日本大震災からの復興に関わる様々な立場の方々が一堂に会して議論することで、震災復興の現在を確認し、地域の課題を共有する場として機能してきた。今回の「みやぎボイス」では、「復興検証の検証を望む声」をテーマに議論を進めた。各所で検討されている震災復興の検証について、情報を共有しながらそれらの検証自体を検証することを試みたものである。

○内容と成果

例年「ラウンドテーブル」という議論形式により、登壇者も聴衆も一体となった課題の共有と気づきを与える場として実施してきたが、今回は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、遠隔地から参加する登壇者と一般参加者については、オンライン会議ツール Zoom を用いたリモート参加とした。

冒頭、基調クロストークとして、兵庫県立大学の室崎益輝教授から、復興検証の二つの切り口と検証の継続性について、また日本災害復興学会会長で専修大学の矢根淳教授から検証での二つの視点が提示された。

それをふまえて、前半3テーブル、後半3テーブルの合計6つのテーブルにおいて、広くて深い議論が展開された。

リモートによる登壇者は会場にてスクリーンに映し出され、映像共有することで、良好な環境を実現することができた。リアルとリモートを併用して復興とまちづくりに関わられている各分野の方々に参集いただき、多様な意見交換と示唆に富む知見の共有ができた。

また当日は、NHK の取材を受けニュースとして放映されるとともに、新聞社6社の取材と後日の報道があった。

(2) 親と子の都市と建築講座 2020

リモート「スマハキット」でスマート ハウスの実力を体感しよう

菅原 正則

日時: 2020年8月2日、10:00～12:00(午前の部)および13:00～15:00(午後の部)

開催方法: オンライン (Zoom)

講師: 菅原正則(宮城教育大学 教授)

長谷川兼一(秋田県立大学 教授)

西川竜二(秋田大学 准教授)

司会: 長谷川兼一(前出)

参加者: 午前6名(小学生5名、中学生1名)、午後5名(すべて小学生)

趣 旨(案内チラシより):

これまで身近に使われてきたモノに、センサーやデータ通信・処理の技術を加えて「スマートに(賢く)」すると、便利で無駄のない動きをするようになります。「スマートハウス」は、主に電気エネルギーを無駄なく使用するしくみを持ち、自然エネルギー利用に役立ちます。それは地球環境を守るだけでなく、災害などでライフラインが途切れても生活を支える役割を果たします。この講座では、このような住まいをスマートにする意味について学びます。

内容:

本講座は、秋田県立大学システム科学技術学部 創造工房委員会の主催による第13回夏休み科学教室「おうちで創造学習」への出展という形態で実施された。新型コロナウイルスへの感染予防の観点から、すべての講座が zoom を通じてオンライン開催されることになったので、主催者側が、前日までに参加者との通信テストを行った。実施メニューは、午前の部、午後の部とも同じものを用意した。

(1) 開会のあいさつ(長谷川)

講座の開催趣旨が説明された。

(2) スマートハウスと「スマハキット」の説明(菅原)

まず、スマートハウスの仕組みや、それが必要である理由を、HEMS や ZEH という言葉を引き合いに出しながら説明した。そして、それらの普及のためにスマートハウスの仕組みを簡易で安価な電子回路で構成した建物模型教材キット「スマハキット」を開発してきたが、今回、オンライン開催のためにリモート化したことを伝えた。そのリモート「スマハキット」は宮城教育大学に設置され、ほかの講師がそれぞれの大学に居る体制で、ネットワークでつながれることにより講座が開催されていることを、図1によ

り示した。

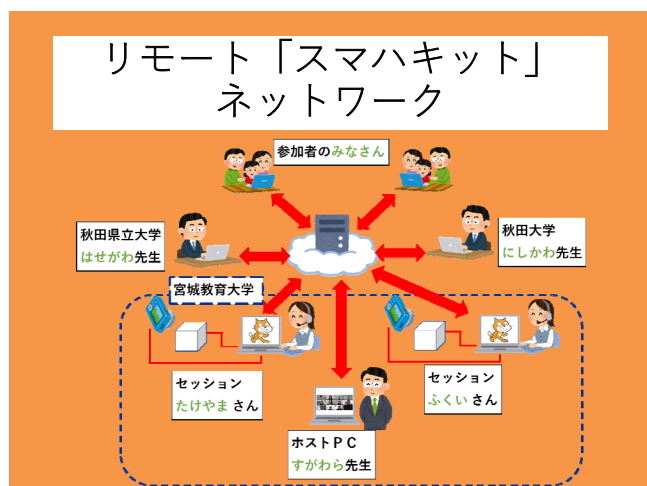


図1 リモート「スマハキット」の実施体制

(3)リモート「スマハキット」の使い方(菅原)

「スマハキット」は、LED と Cds 照度センサーを組み込んだ建物模型、センサーボード (ちっちゃいものくらぶ NanoBoard AG)、ノートパソコンで構成されている。LED への電源はリレーを通じて供給され、Scratch の自作プログラム (ON/OFF モード、可変調光モード、HEMS モードの切り替えと、計測機能を持つ) により出力制御が行われる。

リモート化のために、まず、従来センサーボード上のボタンやスライダーで行っていた操作を、すべて Scratch の画面上で行えるようにした。そして、zoom の「リモート制御」機能を用いてノートパソコンの操作権限を参加者へ譲ることにより、リモートで「スマハキット」を使用できるようにした。自分が操作した結果については、Scratch の画面上で測定値がモニターできるだけでなく、写真1のように Web カメラで模型内の照明が光る様子で確認できる。

これらのことを一通り説明してから、5分休憩に入った。



写真1 リモート「スマハキット」の設置状況

(4)スマートハウスの実力を実感しよう(菅原、長谷川、西川)

ここでは、zoom の「ブレイクアウトセッション」機能を用いて、3つのセッションに講師 (共同ホスト) と参加者が分かれ、それぞれ参加者のペースに合わせて説明や操作をしながら進めた。リモート「スマハキット」が設置されている宮城教育大学には、電子回路の繋ぎ替えやトラブル対応のための学生がサポートに付いた (写真2)。

電源と LED 制御の組み合わせについて、①電池 + ON/OFF、②電池 + 手動可変調光、③音声発電 (コンデンサなし) + 手動可変調光、④音声発電 (コンデンサあり) + 手動可変調光、⑤音声発電 (コンデンサあり) + HEMS、の5条件について実験を行った。参加者は1分チャレンジ (1分間でどれだけ目標の明るさに調整できるかを競う) の結果を比較することにより、蓄電 (コンデンサ) や HEMS を用いた際の効果を体感した。

音声発電とは、参加者が発生させた音を「スマハキット」のノートパソコン側で鳴らし、それをセンサーボードで検知して電源の出力を増減させる仕組みのものである。ただし、音の種類によっては、zoom のノイズカット機能が自然に働くことによって、参加者の発生音が「スマハキット」のノートパソコン側で途中から鳴らなくなるという、リハーサルでは起こらなかったトラブルもあったので、課題が残る。



写真2 宮城教育大学の会場の様子

(5)自然エネルギーで安定発電コンテスト(菅原)

zoom の「ブレイクアウトセッション」機能を終了して、全員が再度集まった後は、③音声発電 (コンデンサなし) + 手動可変調光の組み合わせにおいて、安定的に発電できるかのコンテストを実施することを、当初予定していた。しかし、「(4) スマートハウスの実力を実感しよう」において音声が発らなくなるトラブルがあったので、②電池 + 手動可変調光の組み合わせで、安定した明るさを得ることができるかの1分チャレンジを行い、成績上位3名に秋田県立大学特製エコバッグを贈呈した。参加者全員には、秋田県立大学特製のクリアファイルと付箋を参加賞として贈呈した。

(6)まとめと閉会(長谷川)

講座の参加への感謝を述べ、アンケートへの協力を依頼して終了した。

参加者の感想:

講座終了時に依頼したアンケートについて、参加者9家族のうち6家族から回答を得た。

○講座の内容はいかがでしたか? 感じたものに○をつけて下さい。

回答は、大変満足2、満足4、やや不満0、不満0であった。おおむね満足して頂けたようである。

○よかった点、わるかった点をおしえて下さい。

回答は次の通りであり、内容の難しさや zoom で声が聴きづらい点を指摘する声もあったが、概ね楽しんでもらえたようである。

- ・少し難しかった
- ・コントロールバーを動かすのが楽しかったです。
- ・講義内容が少し難しいと感じた所もありますが、音を出すなどの動くところがあって子供にも楽しめたと思います。
- ・やはりリモートだと聞こえづらいことなどがあったけれど、資料などでわかりやすく説明されていたところが良かったです。
- ・リモートでもエネルギーを送れることが分かって驚いたのと、知れて良かった。ネットワーク環境のせいで、途中何度か落ちてしまったので、残念だった。
- ・笛の音が伝わらなかったのが残念 すこしあってよかった

○今後、今回のテーマのような講座があれば参加してみたいと思いますか？

回答は、参加する5、参加しない1であった。関心の高さが感じられた。

○他にどのようなテーマの講座があれば参加したいと思いますか？

回答には「ものをつくるテーマ」「紙を切ったり、折りたたんだりしていろんな形を作る工作をしたいです。」「プログラミング講座、ロボット作り講座」「実験系で驚き、面白いと感じられる講座があれば参加したいです。」「ジャンルは問いません。」「スポーツに関する科学」といった多様なテーマへの要望が感じられた。

○そのほかにも、ご意見・ご感想をおしえて下さい。

回答には、「zoom での体験活動という試みは大変な面もたくさんあったとは思いますが、子供たちが体験できる場面を作ろうと試行錯誤してくださったのだな」といながら拝見させていただきました。」や「まだ小学校1年生のため仕組みを理解するには時間がかかりそうですが、ゲーム感覚でスマートハウスや自然エネルギーへ興味を持つ、きっかけが持てたと思います。」のように、本日の講座の取り組みを理解する声が寄せられた。



写真3 参加者はこのような画面を見ながら講座に参加する

今年度は、5月下旬に急遽オンライン開催することが決

まり、そのときから準備が始まった。オンライン開催するための内容変更や、資材不足の中での機材準備、そして技術的な課題解決などに取り組み、事前のリハーサルも複数回実施したが、予想外のトラブルに見舞われることになった。その結果、進行がもたついただけでなく、2時間の予定が20分程度長引くことになり、参加者にはご迷惑をお掛けしたことと思われる。

子ども向けイベントは、1カ所に集まって賑やかに開催してこそ楽しめると思うが、コロナ禍の中の新しい生活様式は、今後数年は続くかも知れない。次年度は、さらに対策して企画したいと考えている。学会による「親と子の都市と建築講座」の枠組みの継続を期待している。

(菅原正則、長谷川兼一、西川竜二)

(3) 親と子の都市と建築講座 2020

ずっと居つづけたい自分だけのへや

ーイマジナリー・アーキテクチャーー

菅原 正則

日時:2020年12月26日、10:00~12:30

開催方法:オンライン (Zoom)

講師:菅原正則 (宮城教育大学 教授)

堀早紀子 (宮城教育大学 4年生)

参加者:5名 (小学2~6年生)

趣 旨(案内チラシより):

「居心地のいい部屋」ってどんなの？

カラフルなパステルカラーに囲まれている？

大好きな、あのキャラクターのぬいぐるみでいっぱい？

アンティークでどこか懐かしい香りがする？

それとも、余計なものが何もない無機質な空間・・・？

この講座では、オーストラリアのアーティスト、ララ・トゥマック (Lara Tumak) さんが手掛けているイマジナリー・アーキテクチャーの方法で、自分が居心地のいいと思う部屋の模型を、紙箱の中に作ります。

内容:

オンライン開催に先立ちミーティングURLをメールで送信し、開催日の2日前までに接続できることを確認した。その際に、①音声と映像が双方向で使用可能かどうかの確認、②報告書作成のため当日は開催の様子を録画することの説明とその受諾、を行った。部屋の模型を作成するための材料 (ダンボールの小箱、画用紙、色付き樹脂粘土、発泡スチロール、工作用ボンド、LED ランタン) は、事前に宅配便で送付した。

当日は、申し込み者全員が無事 Zoom へ参加できた。注意事項やアンケートの案内をした後、1人ずつ自己紹介 (名前、学年、好きな教科または嫌いな教科) をして頂いた。参加者には、ハサミ・カッターなどの「切る道具」、のり・両面テープ・マスキングテープ・ガムテープなどの「貼る

道具」、色鉛筆・クレヨン・色ペンなどの「描く道具」の用意を伝えたが、既に家庭にあるもので構わないことも申し添えた。

以下が全体の内容であるが、見出しは敢えてひらがなで表記した箇所がある。スケジュールの説明の際、小学校低学年の参加者にも直接伝わるようにする工夫である。

(1)はじめの説明

今日のスケジュールを示した後、イマジナリー・アーキテクチャーの背景や事例を紹介した。そして、今日の模型制作のテーマが「ずっと居つづきたい自分だけの部屋」であることから、自分にとって「居心地のいい」と感じられる部屋を作ることが狙いであると説明した。

イマジナリー・アーキテクチャーとは、ララ=トゥマック (Lara Tumak) が2017年1月にオーストラリアのメルボルンにあるビクトリア・アート・センターで行ったインスタレーション展示である。まず、展示の参加者はそれぞれ空き箱を持参し、提供された画材や材料を使用しながら箱の中に自由に風景を作る。箱の上面には開口部があり、そこから懐中電灯で照らされた内部を、箱の側面の穴から片目で覗くのである。それら作品は、暗闇にしてある会場に何段にもなって積み上げられ、来観者は懐中電灯を頼りに1つ1つの箱内風景を巡り歩く。作品には、箱の中に家全体を設置したものもあれば、恐竜の生息地、遊び場、墓地などの屋外のシーンを表したものもあった。



写真…宮城教育大学の学生が制作した「居心地のいい部屋」

(2)じゅんぴ作業(模型内に配置するものの制作)

まず、事前に送付した模型材料の内容を確認した。これらはすべて参加者に差し上げるので、使い切っても、余分が生じて、いずれでも構わないことを伝えた上で、作業を開始した。

作業の初めは、カラー樹脂粘土でヒト模型を作ることである。このとき、異なる色の粘土を混ぜて顔の色を作る方法を説明した。そして、樹脂粘土や発泡スチロールで家具や置き物を各自で制作した。参加者が制作する間、講師も簡易に制作する様子を手元カメラで示した。質問などは常に受け付けることを、時々伝えながら進めたが、制作に関する質問は無かった。

カラー樹脂粘土で制作したものは、後に木工用ボンドで接着するため、乾燥させた。この作業の後、5分休憩の時間を取り、時間をかけて乾燥できるようにした。



写真…手元カメラで、ヒト模型の作り方を説明する様子

(3)もけい作り

事前に参加者へ送付したダンボールの小箱は、模型制作しやすいように切り開き、照明のための上面の開口部や側面の覗き穴を開ける加工を施している。まず、これの内側に貼って壁や床の仕上げにするための画用紙に、壁や床の様子を描いて頂いた。この画用紙も、ダンボールの小箱のサイズに合わせて切っておき、貼り付け面には両面テープを貼っておいた。壁や床の様子を描き終えてから、壁の画用紙のみ箱の側面(穴の開いていない面)に貼り付けて頂いた。

次に、ダンボールの小箱を組み立て、合わせ目を外側からガムテープなどで固定して頂いた。そして、床の画用紙を貼り付けて頂いた。箱を組み立てた後は、壁や床に描き加えることができないので、前もってそのことを伝えた。

その次に、「じゅんぴ作業」の時間に制作したヒト模型、家具、置き物などを貼り付けて頂いた。これで、室内模型の完成である。楽しく制作が進んでいるためか完成予定時刻になっても参加者の作業が続いていたので、様子を見ながら作業を切り上げてもらうよう促した。

(4)作品のしょうかい

完成した作品の紹介と鑑賞は、パソコンのカメラに箱の覗き穴を当てて行った。下の学年の参加者から順に、どのようなイメージで「部屋」を作ったかを述べてから、箱内部を見せて頂いた。イメージには「よく食べてぐっすり寝る」「のび太の部屋」「夢の世界」「くつろげる場所」「絵を描くことと、天文が好きだからそれを表した」が挙げられた。作品が紹介される毎に、講師からそれぞれコメントを述べた。総評として、短い時間ながらも完成に至ることができたこと、オンライン開催であるにも関わらず講座に参加して頂いたことへの感謝を述べて、終了した。



写真...カメラに覗き穴を当てて箱内部を紹介する

参加者の感想:

講座終了時に、参加者にアンケートを実施し、4家族すべてから回答を得た。

○講座の内容はいかがでしたか? 感じたものに○をつけて下さい。

回答は、大変満足4、満足0、やや不満0、不満0であった。企画・実施担当者として安堵している。

○よかった点、わかった点をおしえて下さい。

回答は、「2年生の子どもも自分のレベルにあわせて作ることができて良かったです。」「先生のおしえかたが上手でした。自由に考えて作れることが良かったです。」「送ってもらったものでしっかり作れて、とても楽しかったです。でも、部屋の中をうまく映せなかったのも、写真に撮って送ろうと思います。」であり、好評であった。

○今後、今回のテーマのような講座があれば参加してみたいと思いますか?

回答はすべて「参加する」であった。図工や美術が好きな参加者が多かったことにもよると思われる。

○他にどのようなテーマの講座があれば参加したいと思いますか?

回答には「スチレンボードとかを使った工作の講座等あれば参加したいと思います。」「実験がいいです。」があり、手を動かしてモノを扱うテーマを要望する傾向が見られた。○そのほかに、ご意見・ご感想をおしえて下さい。

回答には、「面白くて上手に作れた。」「コロナで子供たちがでかけられず、学びの機会が減っている中でこのように自宅で参加させて頂けるととてもありがたいです。また、自宅で参加できることで、子供たちが緊張せずに参加できたことが良かったです。」「自由に自分のペースで緊張せずに参加できて良かったです。自宅に教材を送って頂き、また楽しい時間をありがとうございました。」と、楽しんで頂けた様子が感じられた。コロナ禍のためにオンライン開催となったが、むしろそのことにより参加しやすかったようである。

本講座のテーマは、案内チラシの文にも示したように、Lara Tumak が2017年1月にオーストラリアのアーツ・センター・メルボルンで開催した、Imaginary Architecture というワークショップを、室内空間づくりに限定しオンライン化したものである。作品を光で照らして鑑賞する内容であるので、開催時期は年末の冬休み期間に設定した。2

週間の参加募集期間であったにも関わらず、5名の申込みがあり、また実施後には、模型の内部の写真をメールで下さった参加者や、模型材料の余りで制作された絵馬の写真の年賀状をお送り下さった参加者もあり、大変ありがたかった。

この度の「親と子の都市と建築講座」は、小学生が室内空間に想いを馳せる貴重な機会になったと考えている。学会主催の本枠組みの継続に期待している。

(文責 菅原正則)

2020年度司法支援建築会議東北支部活動報告

司法支援建築会議東北支部
運営委員長 吉野 博

司法支援建築会議の東北支部は2019年4月1日に設立されました。その年度の5月11日には、発足記念講演会を開催し、小野徹郎名古屋工業大学名誉教授(司法支援建築会議運営委員会 元運営委員長)から「司法支援建築会議のこれまでとこれから」と題し、小川理佳判事(仙台地方裁判所)からは、「近年の建築紛争の特徴と課題」と題して講演をいただきました。

また、2019年10月30日には、第1回建築紛争研修会を開催し、事例紹介として中居浩二会員(宮城県建築士事務所協会 専務理事)からは、「専門委員・調停委員の実務について」と題し、松本純一郎会員(日本建築家協会東北支部/松本純一郎設計事務所)からは、「判断の難しい事例の紹介」と題して講演をいただき、その後、櫻井一弥会員(東北学院大学教授/司法支援建築会議東北支部運営委員 幹事)をモデレーターとして、砂金隆夫会員(宮城県建築士会会長)、中居浩二会員、松本純一郎会員を交えてパネルディスカッションを開催しました。

2020年度は、5月16日の支部総会の直前に、「東北地方の各地における建築紛争の現状と課題」と題するシンポジウムを開催する予定でしたが、新型コロナウイルスの蔓延のために、残念ながら中止といたしました。

その後、司法支援建築会議東北支部としては、2021年1月10日(金)に本年度初めての運営委員会を開催しました。この委員会では、司法支援建築会議の方からの依頼として、司法支援建築会議東北支部の会員の追加に関して議論しました。また、本年度中止となった企画について、東北支部の5月の総会の直前に、既に企画した内容のシンポジウムを改めて開催するという事で準備を進めることとなりました。このシンポジウムでは、東北地方の三つの県における建築紛争事例の特色について話題提供をお願いすることにしております。多くの方の参加を期待しております。

2020 年度日本建築学会設計競技東北支部 審査報告

審査委員長 馬渡 龍

今年の設計競技のテーマ「外との新しいつながりをもった住まい」である。各応募者がこの課題に取り組んだ時期は、奇しくも三密、ソーシャルディスタンス、リモートワーク、新しい生活様式といった言葉がおびただしく飛び交う中である。ともすると外とのつながりが大きく制約されるなか、応募者は現在を起点に自分自身や社会の過去を振り返りながら未来の新しいつながりを考える機会となったものと拝察する。

今年度東北支部では21作品の応募があり昨年の14作品より大幅に増加した。応募作品の主題もこの数年震災を起点に展開する作品が多かったのに対し、今年はありふれた地域の日常生活（No.15）、人口減少や少子高齢化に関連する様々な社会問題（No.6,8,9）、地域の歴史・文化（No.4）、そして新型コロナ問題（No.2,21）を手掛かりにプロジェクトを展開するなど多様な作品構成がみられた。震災に関するテーマも以前は緊急性が高くモニュメンタルな作品の傾向があったのに対し、今年は震災地域において生活・仕事・子育てといった日常をどのように取り戻すことを主題とした作品（No.3,7,13）や、既に完了した復興事業で失った景観を再考する作品（No.14）が見られたのも特徴的である。テーマにある《つながり》という抽象的な言葉を建築という実態で問題解決するために境界面をどのようにデザインするのが問われる。今回の応募作は、家と家（住戸と住戸）、くらしと仕事（No.11）、内と外（No.5,12）、個と個（No.20）などに横たわる境界面を新しい切り口で丁寧にデザインしている作品が数多く見られたことが印象的であった。

さて、今回審査を通じ全ての応募作品から伝わってきたのは「それでも人や社会とのリアルなつながりは大切である」という応募者の力強いメッセージである。

2020 年度第 83 回支部研究報告会

常議員 一條 佑介

2020 年 6 月 20 日(土)、コラッセふくしまにて開催を予定しておりました 2020 年度東北支部研究報告会「みちのくの風 2020 福島」について、2020 年 4 月 16 日の東北支部役員会で審議した結果、新型コロナウイルス感染症の拡大防止と会員各位の健康・安全に配慮して開催中止を決定いたしました。

なお、応募された論文は、「日本建築学会研究報告東北支部第 83 号・日本建築学会東北支部建築デザイン発表梗概集第 6 号」（CD-ROM 版）と「日本建築学会研究報告東北支部第 83 号計画系（冊子版）」「日本建築学会研究報告東北支部第 83 号構造系（冊子版）」に収録され、発表されたものと認定しております。また、収録された内容は、これまで同様、研究報告会で発表されたものとして扱うといたしました。

ちなみに、2020 年度の発表総数は、計画系 49 題、構造系 35 題の合計 84 題となりました。ところで、2019 年度の発表総数は、78 題であったが、2020 年度より論文掲載料を値下げして会員に申し込みするように促したこともあり、2020 年度は応募総数の増加に寄与したものと思われま

2020 年度 第 6 回日本建築学会東北支部 建築デザイン発表賞 選考報告

選考委員長 櫻井 一弥

1. 応募講演

10 講演

2. 選考経過

今回は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、みちのくの風 2020 が中止となったことに伴い、建築デザイン発表会を中止した。

改正された内規（日本建築学会東北支部建築デザイン発表賞選考方法内規）に基づき、建築デザイン発表会が開催されない場合は、発表梗概を表彰の対象とする旨を確認した上で、建築デザイン教育部会の委員全員によって選考委員会を組織することとした。

2-1 事前選考

2020 年 6 月 15 日(月) ～ 6 月 21 日(日)

応募講演全 10 題の中から「第 6 回日本建築学会東北支部建築デザイン発表賞」として相応しいと思われる 2 題を、「第 1 位」「第 2 位」として順位を付けて投票してもらうこととした。投票に当たっては、オンライン上のデータストレージから梗概を閲覧するものとし、専用の投票フォームを作成して投票した。8 名の委員より投票があり、以下のように 7 題が票を獲得する結果となった(タイトルは省略)。

2-2 選考会

2020 年 6 月 23 日(火) 14:30~15:30

Zoom によるオンライン会議

選考会に出席可能な委員 5 名(下記参照)で、建築デザイン発表賞にふさわしいものを選出することとした。内規に従い、計 10 題の梗概より 2 つを選出することを確認した。

2-1 の事前選考による結果を踏まえ、まずは票を獲得したものについての意見交換を行った。その後協議の上、票を獲得したものうち、第 1 位としての票が入った 4 題(E-02、E-03、E-04、E-09)より 2 題を選出することとした。

委員相互で 4 題に関する意見交換を行った。様々なタイプのプロジェクトがある中で、どのように賞を選出するか、議論が難しかったが、最終的にはそれぞれのプロジェクトを多角的な視点から評価して決定することとした。

結果、次節に示す講演 2 題に第 6 回建築デザイン発表賞を授与することとした。

選考委員長： 櫻井 一弥(建築デザイン教育部会長、東北学院大学)

選考委員： 小地沢将之(建築デザイン教育部会幹事、宮城大学)

増田 豊文(東北文化学園大学)

馬渡 龍(八戸工業高等専門学校)

大沼 正寛(東北工業大学)

3. 選考結果

第 6 回日本建築学会東北支部建築デザイン発表賞 2 点

「道の駅 あんだい」(E-03)

浅井 郁明(東北学院大学大学院)

「公共施設等総合管理計画に基づく施設の複合化に際してのプレデザイン」(E-09)

小地沢将之(宮城大学)

星 歩美(NPO 法人コミュニティ)

齊藤 彰(工作室 齊藤彰一級建築士事務所)

4. 講評

「道の駅 あんだい」

災害時に地域の拠点となることを想定した道の駅の計画案である。宮城県七ヶ浜町を敷地として選定し、通常時、災害発生時、災害復興時にシームレスな利用が可能となるよう設定している。道の駅の災害時利用は、広域的な拠点として検討されてきた経緯があるが、避難生活や仮設期の

E-02	第 1 位 : 1 票	第 2 位 : 3 票	生活を
E-03	第 1 位 : 3 票		想定し
E-04	第 1 位 : 1 票		た提案
E-06		第 2 位 : 1 票	は珍し
E-07		第 2 位 : 1 票	く、実
E-09	第 1 位 : 3 票		用性が
E-10		第 2 位 : 2 票	高いと
			考えら

れる。敷地の状況を詳しく示す資料がなく、立地を確認しにくかった点などの課題はあるが、様々な活用方法が想定された、可変性のある空間の提案が高く評価され、今回の賞に選出された。

「公共施設等総合管理計画に基づく施設の複合化に際してのプレデザイン」

仙台市の将監地区に現存する複数の公共施設を、複合施設として整備する過程において実施された、地域住民によるワークショップの報告である。基本設計に至るまでの要件の整理と、将来的な管理運営を地域住民が担うことを前提として意見集約を行う、プレデザインの先駆的な事例として位置付けられる。堅実なワークショップを積み重ねることで、プロセス・デザインが緻密に計画されている。またその結果が具体的な施設設計や管理運営方針に反映されており、高く評価できる。今後の展開にも期待できるとの意見が多く、今回の賞に選出された。

研究部会活動報告

(1) 建築史・意匠部会

部会長 速水 清孝

今年度は、COVID-19の世界的流行に伴い、みちのくの風2020福島はじめ、多くの行事が中止となった。とはいえ、みちのくの風の支部研究報告会への歴史意匠関連の発表申込みは20題あり、『日本建築学会研究報告東北支部第83号』に掲載された。これは落ち込みの見られた昨年度の9題から、一昨年までの状況に戻した格好である。

また、本部会の近年の活動の主軸となっている建築の保存に関しては、コロナ禍にあっても止められるものではなく、昨年までに解体の報じられていた遠野駅舎(1951)や宮城県美術館(1980)に関して引き続き活動を行った。このうち、宮城県美術館については、委員の尽力もあって解体中止の方向にある模様である。

そして、発災から10年を迎える東日本大震災に関する本会本部シンポジウム(本年3月6日)に向けて、支部内の部会横断的イベントの開催が求められ、9月11日に建築史・意匠部会単独で前段階の意見交換会を行い、12月6日に地方計画・建築計画・本部会による3部会合同シンポジウム「災害の記憶を継承するまちづくりをどのように進めるか」を催した。建築・材料・文書の保存、復興に向けた重伝建指定、原子力災害を受けた地域での文化財指定等の事例紹介があり、その上で議論した。

災害後の記憶の継承にあたって、人的つながりや活動継続の重要性などが指摘され、意識の共有が図られた。本会合同シンポジウムによって、普段は少ない他部会との交流が図れたという意味でもよい機会となった。その一方で、私見であるが、学術団体としての本会が、こうした日常の社会貢献的な活動を共有する場を持つ必要があるとも感じた。なお、参加者は22名であった。

最後に、2月13日に発生した福島県沖地震による歴史的建造物の被害把握が、現在、喫緊の課題となっている。

(2) 建築計画部会

部会長 坂口 大洋

東日本大震災発災から10年が経過し、多くの被災地において10年を節目として地域の復興拠点の役割を担う様々な公共建築の整備が進展してきています。これまでの、どのようにハード整備を行う段階から、これらの整備がどのように地域に貢献するかが問われる段階に移行しつつあります。コロナ禍において生活環境における様々な影響が広がるとともに、今後の建築計画における新たな指針への検討が急務となっている。しかしながら、施設調査などの実

施などが難しい側面もあり実態把握が困難な側面もある。

建築計画部会においては、発災から10年の節目のその活動の一環として2020年12月6日(土)にオンラインで開催された東日本大震災の10周年記念シンポジウムWG5報告に竹内泰先生(東北工業大学)に津波被害と番屋などの復興支援の報告を行っていただいた。ご尽力いただいた関係者にこの場を借りて、御礼を申し上げます。

また、東北支部研究補助の支援を頂き、「東北地方における公共施設等総合管理計画策定状況と施設集約化・複合化の基礎調査」(研究代表者 坂口大洋)を行った。近年の津北地方における公共施設等総合管理計画策定状況の把握を行い、具体的な事例について関係者へのヒアリング調査などを踏まえ、基礎的状況の整理を行った。

(3) 地方計画部会

部会長 小地沢 将之

地方計画部会は、昨年度に引き続き「小地域のエリアマネジメント」をテーマに、教育研究や実務のさまざまなフィールドで活躍する部会員の関心領域の擦り合わせを行った。

2020年12月6日(土)には、建築史・意匠部会、地方計画部会とともに、東日本大震災10周年シンポジウム「災害の記憶を継承するまちづくりをどのように進めるか」を開催した。歴史的建造物の保存活用などがメインテーマとなる中で、当部会からは小地沢が「都市計画のエッジでの記憶と経験の継承の取組み」と題し、2つのアプローチで報告を行った。1つは震災前から蓄積されてきたソーシャル・キャピタルにより地域の伝統行事の復興を成功させた相馬市磯部地区の事例、もう1つは仮設住宅団地の集会所の活用のノウハウを熊本地震の被災地に継承した事例について報告した。その後の討議においては、東日本大震災の経験を他所に適用していくことの重要性が共有された。これらの成果は2021年3月6日(土)に開催された日本建築学会東日本大震災10周年シンポジウムのWG5ワークショップに継承された。

去る2月13日に発生した福島県沖の地震については、災害調査速報のうち、生活関連のとりまとめを当部会として引き受けた。断水や交通遮断などによる生活への影響について、各担当者が鋭意執筆中である。

東日本大震災の発災から10年が経過したが、復興はまだ通過点である。発災により顕在化した都市や地域を巡る幾多の課題に向き合い続けることのみならず、持続可能な社会のあり方を構築し、これを普遍化していくことは、当部会の重要な使命であると心得て、次の1年に向かっていきたい。

(4) 構造部会

部会長 前田 匡樹

2020年度は、年度当初からの新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う緊急事態宣言などの社会情勢により、大幅に活動が制限された。例年、開催していた JSCA 東北支部との共催の講演会も開催が見送られた。

2021年2月13日に発生したの福島県沖の地震では、福島県を中心に建築物にも被害が発生した。東北支部では、この地震災害に対して、日本建築学会本部の災害調査方針に従い、支部としての調査団を組織はせず、会員の判断で各自調査を行うこととなった。また、支部では各会員の結果を集約して、災害調査速報を発行することとした。

構造部会では、その方針に基づき、部会委員及び JSCA 東北支部に呼び掛けて、被害調査の情報を収集した。その結果、宮城県及び福島県の学校建築の初動調査（東北大学・前田匡樹教授ほか）、福島県内の建築被害（日本大学工学部・浅里和茂教授ほか）、山形県内のカーポートの被害（玉形大学・三辻和弥教授）などの情報を収集した。これらの調査結果について、今後、報告会などで発信していく。また、2021年度は、新型コロナウイルス感染症の状況を慎重に見極めながら、活動を行っていく予定である。

(5) 環境工学部会

部会長 長谷川 兼一

環境工学部会では、研究テーマを「東北地方の建築・都市の統合的な環境負荷削減のあり方に関する研究」とし、包括的な視点から研究フレームを構築して部会員の専門性が反映できるように活動している。コロナ禍ではあったが遠隔会議システムを活用して、例年通り、定常的な部会を3回開催（6月、12月、3月）した。部会員は東北各地を拠点としているため、対面式の会議では移動時間を考えると参加が難しい面もあるが、遠隔会議ではそのバリアがなくなった。遠隔会議であっても情報共有や議論は可能であったため、今後もこのメリットを活かして、部会の活性化に繋げていきたい。

当部会は、空気調和・衛生工学会東北支部、建築設備技術者協会東北支部他の関連学協会との接点があるため、定期的に実施しているイベントの共催・後援を引き受けた。また、親と子の都市と建築講座を例年通り提案し、今期は8月2日に秋田、12月26日に仙台で実施した。両会場とも Zoom を用いてのオンライン開催を試みた。秋田では、『リモート「スマハキット」でスマートハウスの実力を体感しよう』と題し、遠隔で「スマハキット」を操作し、最も電気エネルギーを無駄なく使える条件をゲーム感覚で探る内容とした。参加者は県内の小中学生11名と年齢層に幅があったが好評を得た。また、仙台では、『ずっと居つづきたい自分だけのへやーイマジナリー・アーキテクチャー』と題して、室内模型を制作するオンラインのワークショップ

とした。このような形式での実施にあつては課題もあるが、今後の可能性を拡げることができた。

部会では、先般の建築学会東北大会の研究協議会の企画立案に際して議論を積み重ねた「情報化と環境」を部会共有のテーマとしている。年度当初に BIM の初学者を対象としてハンズオン・セミナーを実施する予定であったがコロナ禍において延期とし、部会員の情報提供による勉強会を継続している。環境工学部会には、専門が異なる部会員により構成されているため、部会運営に当たってはいろんな引き出しを有している。その利点を活かして、引き続き、支部活動を盛り上げていきたい。

(6) 材料部会

部会長 石山 智

2020年度の材料部会では、前年度までの活動の継続として「サステナビリティ確保に向けた建築材料からの取り組み」をテーマとして幹事会を1回、部会を3回開催し、活動を行った。本テーマは継続6年目となり、これまで様々な活動を行ってきたが、今年度は新型コロナウイルスの影響により全ての会合は遠隔開催となるなど、部会活動には少なくない制限が課された。さらには学会の中止など研究教育活動への影響も大きく、特に実習を旨とする建築材料教育の実施においては、受講生の理解を深めるための新たな手法が求められる状況であった。そこで今年度は、遠隔環境下における教育研究活動の実践状況と実施手法に関して部会内で紹介や意見交換を行い、情報共有を図った。

第1回部会は7月2日(木)に Google Meet を使用して会議を行い、各教育機関における学生への対応状況や実習系講義の実施に関する情報交換を行った。また、各教育機関で作成された実習系教育用動画について共有化を行ったほか、受講をサポートするアプリケーションなどのツール等に関して知見を得た。第2回部会は1月29日(金)に、第3回部会は3月22日(月)に Zoom を使用して行い、遠隔講義を実施した結果と共に受講生の反応に関して意見交換を行った。また、講義の一環として実施されたオンライン見学会について紹介があり、映像配信のために必要なシステムの詳細や実施の方法について提案があった。

以上のような活動を通して見えてきたのは、遠隔化の弊害と共にオンライン技術を使うことによる今後の可能性である。建築業界における ICT 技術の導入はもはや必須であるが、教育分野においても新たな教育効果が期待できる。アフターコロナにおける建築材料教育を見据え、今後も本活動を継続する予定である。

(7) 施工部会

部会長 飯藤 將之

活動テーマは前年度と同じ「建築施工における技術継承と新たな展開」であり、例年のように技術報告会と作業所見学を計画していた。しかし、年度当初からの緊急事態宣言を受けて、5月の（仮称）石巻市複合文化施設建設工事の見学会を中止とした。その後一ヶ所に集まって活動は無理と判断し、オンラインでの活動に変更することとした。かと言って、委員の殆どが遠隔素人で、一度目は講演・講義形式とすることとし、7月に佐藤洋介弁護士により「民法（債権法）改正」に関する講義をしていただいた。改正前は竣工前後で債務不履行と瑕疵に分かれていたものが、契約不適合責任として、買主から売主（請負人）に課されるようになることなどを学んだ。

10月は、那須建設の遠藤善広氏より長井小学校の免振化工事と大林組の都築民幸氏より弘前れんが倉庫美術館のリニューアル工事に関して技術報告していただいた。前者では、もともとの木造骨組のジャッキアップ（+ダウン）と免振装置の設置について紹介していただいた。後者では、PC鋼棒による基礎とレンガ壁の補強と詳細な工区分けに基づいた屋根面補強について紹介していただいた。

2月は、清水建設の櫛引誠司氏より、3Dレーザースキャナーを用いた天井の耐震改修工事と竹中工務店の西村栄二氏より、米沢市市庁舎の建設工事の概要について技術報告していただいた。前者では、3D計測から図面・BIMデータの作成、特定天井への耐震改修への一連の流れを紹介していただき、足場不要の安全性、完成形の可視化ができる利点があるものの、膨大なデータの中で最後は人の役割が大切になることを紹介していただいた。後者では、CMRの要請に応えるコスト圧縮と工期短縮の方策について紹介していただいた。

コロナの中で、限られた活動とはなったが、技術報告会を開催し続けられたことは意義深く、尽力してくださった皆様にお礼申し上げます。

(8) 建築デザイン教育部会

部会長 櫻井 一弥

2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、6月の「みちのくの風」が中止となり、それに合わせて開催予定であった「第6回建築デザイン発表会」も中止としたが、改正された内規（日本建築学会東北支部建築デザイン発表賞選考方法内規）に基づき、建築デザイン発表会が開催されない場合は、発表梗概を表彰の対象とする旨を確認した上で、建築デザイン教育部会の委員全員によって選考委員会を組織して、第6回日本建築学会東北支部建築デザイン発表賞を選考した。応募10題に対して、事前

選考（2020年6月15日（月）～21日（日））並びにZoomを用いたオンライン会議（2020年6月23日（火）14:30～15:30）を実施し、2題を第6回日本建築学会東北支部建築デザイン発表賞として選出した。賞の選考過程に関する詳細並びに講評については「2020年度 第6回日本建築学会東北支部建築デザイン発表賞 選考報告」を参照されたい。

また、公益社団法人日本建築家協会（JIA）東北支部が主催する「第24回JIA東北建築学生賞」に関して、今回は本部会が共催として参加することとなった。本部会からは大沼正寛委員を審査員として派遣したことに加え、運営の一部を担った。実施日時は2020年10月23日（金）12:30～17:30、実施場所はせんだいメディアテーク1階オープンスクエアである。審査員は会場に参集、発表者である学生はオンラインという複雑な運営形式であったが、大きなトラブルもなく成功裡に終了することができた。JIA東北建築学生賞への審査員派遣は、2014年度より実施しているものであるが、建築実務界と教育機関との重要な交流の場として機能していると考えている。

2021年度は、新型コロナウイルス感染症の状況を慎重に見極めながら、活動を決定していく予定である。

(9) 災害調査連絡会

委員長 佐藤 健

災害調査連絡会では、地震などの自然災害が発生した際に、迅速な被害調査、及び、復興支援活動を実施するための組織と連絡体制の整備に継続して取り組んでいる。委員長（佐藤健）のもと、支部内の8研究部会（構造、材料、建築計画、地方計画、歴史意匠、施工、環境工学、建築デザイン教育）の各部会長及び部会推薦委員からなる連絡・調整幹事会を設置し、本部災害委員会・東北支部代表委員（東北工業大学・堀則男教授）と連携しながら、災害発生時の情報発信と共有、被害調査の調整などを行っている。

2020年度は、2020年7月27日から7月28日にかけての梅雨前線による豪雨（令和2年7月豪雨）により、最上川本川では上流部の一部（大江町左沢）と中流域（大石田町、大蔵町）で氾濫が生じ、多くの住宅で浸水被害が発生した。最上川支川の氾濫も山形県内の随所で発生した。東北支部としての調査団を組織することはしなかったが、東北大学災害科学国際研究所（森口周二准教授、橋本雅和助教ら）と連携するとともに、山形大学の村山良之教授らと調査計画の打ち合わせや、初動調査結果の情報共有等を行った。学校を中心とした被害と対応に関する調査を実施することとなった。

また、2021（令和3）年2月13日23時08分頃に発生した福島県沖の地震（M7.3 暫定値）では、宮城県蔵王町、福島県の国見町、相馬市、新地町で震度6強を観測したほか、建築物等にも被害が発生した。東北支部災害調査連絡

会としては、本部災害委員会と連携・調整を行い、今回の地震災害を日本建築学会の「地震災害調査活動指針」における「小規模国内地震災害」と位置づけ、東北支部が災害調査を実施することとなった。



山元町内の RC 造建物の被害



新地町内の土蔵の被害



相馬市内の石塀の被害

(10) 津波に強い建築を活用した津波減災研究委員会

(任期付、2020年4月19日～2024年3月31日)

委員長 田中 礼治

①目的

2011年3月11日の東日本大震災から10年が経過した。復興も進んでいるが、完全とも言えない。特に建築に関しては、土木分野よりも進み方が遅れているように考えられる。近い将来、東京、東海、東南海、南海などには、津波が来ることが予測されている。現状の建築と津波の研究状況では、再度、東日本大震災のような悲劇が起きるような気がしないでもない。そこで、建築の専門家は勿論のこと、津波と建築の関心に興味がある方に多く集まって頂き、津波に強い建築の在り方について考え、津波に強いまちづくりを検討することにした。

②委員会構成

委員会構成の現状は以下の通りである。

委員長 田中 礼治 (東北工業大学名誉教授)

副委員長 船木 尚己 (東北工業大学教授)

委員 46名 (2021年3月13日現在)

③コロナとの関係

新型コロナウイルス感染症流行が長引いており、委員全員が集まる機会を設けるのが困難であるため、2020年は委員会を休止とし、個人的に検討することにした。

④河北新報の「座標」を通じて皆さんと考える。

研究委員会は津波に強い建築を活用して、東日本大震災のような被害に2度と会わないようにするためにはどうしたら良いのかを皆で話し合い、考えることが大切であると思っている。そこで、田中(委員長)が代表して、河北新報の「座標」で、研究委員会で考えるべきことなどを示している。これまで、次の3編(2021年1月5日版、2021年2月2日版、2021年3月5日版)を報告しているので、御一読頂ければ幸いである。新型コロナウイルス感染症が収まってきたら、一度市民を対象としたシンポジウムを仙台で開催したいと考えている。是非、御出席頂ければ幸いである。

支所だより

青森支所

青森支所長 盛 勝昭

2020年度の青森支所の活動状況について報告いたします。

例年であれば5月に第1回幹事会を開催し年間事業計画および収支予算などについて協議し、その後開催する全員協議会でご報告、講演会等を実施しておりますが、当支所でも全国に広がった新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、幹事会は書面決議とし、また毎年欠かさず開催していた青森支所の全員協議会は非常に残念ですが中止せざるを得ませんでした。

青森県内で状況が落ち着いてきた11月になってようやく幹事会を開催することができ、コロナ渦中そしてコロナ後に向けた青森支所の活動について話し合いました。

感染防止対策をしつつ事業を実施する難しさから今年度計画していた事業は来年度に延期して実施することとしましたが、来年度も例年の活動ができる見通しが立たない状況であり、この先変化していく社会情勢を考慮し地域の特性に合った活動ができるように意見を持ち寄りこれまで以上に協力しあい活動を進めていくことでまとまりました。

2021年度はコロナウイルス感染症の終息を期待しながら、これからも支所活動を継続し地域に貢献してまいりたいと思います。

秋田支所

秋田支所長 松本 真一

コロナ禍の中、中止した事業（全国大学・高専卒業設計優秀作品と東北建築賞受賞作品の秋田県内展示）もあり、唯一、秋田県工業高校生徒による建築設計作品コンクールをいろいろと配慮と工夫を試行錯誤しながら実施しました。

「秋田県工業高校生徒による建築設計作品コンクール」は、秋田支所主催、9団体後援による工業系高校生の建築教育への貢献を目的とし、今年で49回目の伝統行事です。参加減少を懸念しましたが、結果としては14作品の出品（参加者42名）があり、例年なみでした。コンクールのために新規のプロジェクトを立ち上げるのではなく、正課科目などで扱った課題をブラッシュアップした作品が大半でしたが、そのアップグレードの中身には、諸先生方の篤い指導やグループでの議論や共同作業の跡がはっきりと認められ、全作品から若者らしい「伸びしろ」も十分に感じられました。

半日かけた厳正な審査の結果、最優秀賞に、秋田県立由利工業高等学校の生徒3名による「New Life Style〜本荘に生きる〜」を選定し、令和3年2月13日に講評会と表彰式（写真）を参加者を限定した異例の形で実施しました。

支部の運営に携わる諸兄、また支所の同僚の皆様のご指導・ご配慮とご協力に御礼を申し上げます。



岩手支所

岩手支所長 辻村 俊彦

2020年度の岩手支所の活動状況について報告します。

令和2年11月18日（水）に「第44回盛岡市都市景観シンポジウム」が盛岡市主催のもと開催され、当支所などが後援いたしました。

今回のシンポジウムでは、「今、改めて自然景観のなかで〜田園・郊外への招待〜」と題し、パネルディスカッションが行われました。コーディネーターに斉藤光子氏（フリーアナウンサー）を、パネリストには松本直子氏（農業、りんご畑の中のカフェ mi cafe 経営）、森越康雄氏（画家、

雫石水彩館主宰）、劉 嘉儀氏（岩手大学大学院連合農学研究科）を迎え、盛岡の好きな景観をはじめ郊外の魅力の紹介や、今後も古いまち並や景観を守るための取り組むべき課題などの意見が交わされました。

また、コロナ禍ではあるが、盛岡の魅力を、SNS等を活用して積極的に発信し、訪れるきっかけをつくることも次世代に継承するうえで重要であるとの意見も提起されました。

岩手支所では今後も、地域で開催される建築関係の活動等に対し後援などを行うとともに、機会を捉えて地域社会との交流を図る諸事業の実施に努めてまいります。



シンポジウム

山形支所

山形支所長 相羽 康郎

今年度で3年目となるテーマ、指定文化財の旧山形師範学校木造講堂（旧講堂）とまちづくり、空家活用についてAIJ主催、JIA、建築士会、建築士事務所協会の共催、県と県教育委員会の後援のもと合計2回WSを文翔館で行い、いずれも約10名の参加者であった。

第1回目 10月24日

文翔館から周辺および旧講堂を経て文翔館に戻る現地まち歩きを行った後、3テーマ別にWS、その後全体討議を行った。旧講堂テーマでは柱と梁のズレ等の実態も踏まえて、内部で鉄骨補強した外観重視の保存と敷地内隣接する教育資料館と連携した整備方向が提示された。周辺まちづくりとしてアイストップ道路（三島通庸開削）路面の石畳化、洗心庵庭園、駐車場連携など具体方策が提示された。空家ではリニューアルに向けた制度設計で歴史的建造物を含む活用に向けた条例制定などの方向が提示された。

第2回目 2月6日

旧講堂では、関係者の熱意を求めて山形大学の前身であることからの展開、内部はオープンな感じを残した外部重視の保存補強、飲食機能、周辺住民や子供の運動の場などの提案があった。

まちづくりでは、アイストップ道路の除雪等周辺住民も使いやすい整備、沿道のセットバック、沿道の県立図書館と連携した教育資料館・旧講堂の機能分担（公文書館）などが提案された。

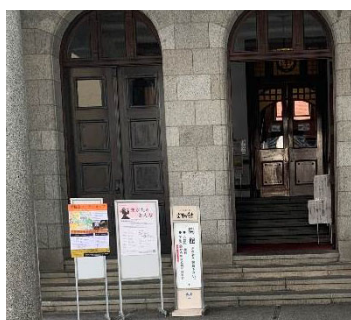
旧講堂の敷地内で教育資料館を含めた整備、アイストップ道路周辺も含めて、県の駐車場、県立図書館との機能連

携などこのゾーンを歴史文化の重要な地域とする必要性が再認識された。

これまで3年にわたる検討を踏まえて、提言をまとめることが合意された。



アイストップ道路正面の教育資料館と
その左にある旧講堂に向かうまち歩き



WS 会場の文翔館正面玄関前
のWSチラシ(左)

福島支所

福島支所長 大竹 健義

2020 年度の福島支所の活動状況について報告いたします。

今年度は、『親と子の建築講座』～親と子のやさしい構造力学講座～』と『第40回東北建築賞受賞作品展示会』を予定しておりましたが、いずれも新型コロナウイルス感染症の影響から開催中止を余儀なくされました。

協賛した『第13回福島県建築系高校卒業設計優秀作品表彰』では、県内の建築系学科を有する高校4校の12人を表彰し、高校生活で培った技術や創造性をたたえました。3月15日、16日に福島市で開催された受賞作品展示では、学生の様々な工夫や想像力に溢れる意欲的な作品が並び、見ごたえのある作品展となりました。

さて、2021年3月11日、東日本大震災と原発事故から10年という節目を迎えました。福島県では、発災直後から

県内のみならず全国各地の建築関係者の皆様から温かい御支援、御協力をいただきながら、建設型応急仮設住宅の供給や復興公営住宅等の整備、被災した住宅や建築物の復旧など住まいと建築の復旧・復興に取り組み、着実に復興への歩みを進めてきました。

一方で、令和元年東日本台風や福島県沖地震など頻発する自然災害からの復旧、新型コロナウイルス感染症への対応、原発事故による長期避難者の帰還や避難指示解除区域の復興、そして、東日本大震災以降の急激な人口減少や少子高齢化への対策など、福島県特有の中長期的な課題が山積しております。

福島支所といたしましては、将来を担う子どもたちが誇りと愛着を実感できる新しい未来が形づくられるよう、引き続き、学術的な研究等を広く還元・発信するなど、地域の教育機関や関係団体と連携・協働しながら、地域に根差した支所活動や事業を更に充実させ、福島の復興・創生に貢献していきたいと考えております。

支部役員会から

常議員 相模 誓雄

支部役員会は、支部長と14名の常議員で構成される。常議員は、会務を処理するため、支部役員会において会務を審議し、議決するものと定められており、東北支部全体の運営を担っている。支部役員会は、年2回以上支部長が招集することとされているが、基本的には隔月程度の頻度で開催されている。

本年度は、支部役員会が5月、7月、9月、12月、2月、3月と回開催され、粛々と会務の処理を行うことができた。支部役員会の開催に際しては、従来より導入したWEBEXの他にZoomも利用し、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底しながら、出席者の増加に効果を上げている。

毎年恒例の行事である、支部総会と支部研究報告会を核とした「みちのくの風」であるが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大につき中止をやむなくされた。支部総会については、総会の議案書と支部年報をIPに掲載することとした。また、支部研究報告会と建築デザイン発表会は、研究報告集第83号（構造系・計画系）とCD-ROMの発行ということで、発表に代えた。

この他、支部長と総務・企画担当常議員は4月に支部役員会を開き新年度の準備に当たったほか、9月には支部長・総務企画担当常議員も出席して支所長会議を実施し、みちのくの風、日本建築学会文化賞の推薦、次年度からの支所交付金の取り扱いについて報告・審議と意見交換を行った。2020年度の支部役員会で取り上げられた主な議事を以下に示す。

■4月総務会（2020年4月16日開催）

[報告事項]理事会報告、会計報告、決算報告、常議員選挙結果・役割分担、支部研・デザイン発表会論文募集の報告と懸案事項、建築年報への事業報告、支部年報編集報告 [審議事項]総会資料（司会進行・懇親会）、新しい研究委員会設置について、建築デザイン発表賞内規改正案、後援依頼 [次期支部長への申し送り] 東日本大震災から10年目の行事、女性会員の会、第41回東北建築賞募集と賞杯、事務局の給料、みちのくの風2021山形、その他

■5月支部役員会（2020年5月下旬メールにて開催）

[新旧役員の引継ぎ] [報告事項]年間行事予定と会議形式、会計報告、建築文化週間事業報告、 [審議事項]支部長代行者、学術推進委員会への支部代表、みちのくの風2021山形について、次年度から卒業設計展示会について、2020年度災害委員会支部市民企画募集、後援依頼、オンラインストレージの使用法、その他

■7月支部役員会（2020年7月27日開催）

[報告事項]理事会報告、会計報告、総会報告、作品選集2021事業中止と今後の予定、本会設計競技支部審査報告、後援依頼承諾、災害委員会支部企画申請と採択報告、学術推進委員会開催報告、 [審議事項]本会文化賞推薦依頼、本会教育賞推薦依頼、本会大賞推薦依頼、みちのくの風2021の会場、次年度からの支部研究報告会について、

ZOOMアカウント契約、後援依頼、その他

■9月支部役員会（2020年9月23日開催）

[報告事項]理事会報告、会計報告、作品選集2021・2022報告、第21期代議員および支部役員選挙、東北建築賞（研究奨励賞部門と業績賞部門）応募報告、作品選集東北支部部会次期委員選出報告 [審議事項]みちのくの風2021、2021年度支部総会の日程と会場、選挙管理委員会の設置、2021年度設計競技支部審査員、津波に強い建築を活用した津波減災研究委員会の期限延長、全国大学高専卒業設計展示会仙台会場、その他

■12月支部役員会（2020年12月8日開催）

[報告事項]理事会報告、会計報告、代議員常議員候補者届出報告、次期設計競技支部審査員選出報告、支部研・デザイン発表会申込受付フォームの進捗状況、支部共通事業講習会の開催方法変更 [審議事項]2021年度支部総会日程・会場・担当・付随行事、みちのくの風2021山形、2021年度支部予算案、支部研究報告集会論文募集スケジュール・募集要項、建築デザイン発表会募集要項、支部年報発刊計画、支部研究補助費申請、全国大学高専卒業設計展示会会場確認、本会大賞候補推薦、その他

■2月支部役員会（2021年2月19日開催）

[報告事項]理事会報告、会計報告、支部研究補助費申請報告、秋田支所からの賞状贈呈依頼承認報告、2021

年度全国・大学高専卒業設計展示会の日程報告、建築基礎、支部年報41号原稿執筆依頼、学術推進委員会報告[審議事項]みちのくの風2021山形、2021年度親と子の建築講座と建築文化事業、後援依頼

■3月支部役員会（2021年3月16日開催）

[報告事項]理事会支部長会議報告、会計報告、支部研・デザイン発表会論文提出報告、福島県沖の地震に関する報告、支部年報編集進捗[審議事項]支部総会、みちのくの風2021山形、第42回東北建築賞、支部監事の選定、後援依頼他

2021 年度 支部役員名簿

東北支部常議員の構成と役割分担

役 割	2020 年度 (2020 年6月～2021 年5月)	2021 年度 (2021 年6月～2022 年5月)
支部長	石田 壽一 (東北大)	石田 壽一 (東北大)
総務企画	原田 栄二 (東北大) 畠山 雄豪 (東北工大) 相模 誓雄 (仙台高専) 宮崎 渉 (日大) 菅野 秀人 (秋田県立大)	宮崎 渉 (日大) 菅野 秀人 (秋田県立大) 佃 悠 (東北大) 谷本裕香子 (東北工大) 恒松 良純 (東北学院大)
社会文化	山田 義文 (日大) 手島 浩之 (都市建築設計集団) 西脇 智哉 (東北大)	手島 浩之 (都市建築設計集団) 西脇 智哉 (東北大) 坂口 大洋 (仙台高専)
学術教育	一條 佑介 (東北文化学園大) 曹 森 (東北工大)	一條 佑介 (東北文化学園大) 曹 森 (東北工大)
会計会員	高橋 良子 (仙台市) 田村 俊哉 (JR 東日本)	鈴木 博之 (仙台市) 中嶋 典之 (JR 東日本)
図書情報	濱 定史 (山形大) 西尾 洸毅 (八戸工大)	西尾 洸毅 (八戸工大) 高橋 岳志 (日大)
事務局	伊藤 章子	伊藤 章子

研究部会長

研究部会	部 会 長
構造部会	前田 匡樹 (東北大学教授)
材料部会	石山 智 (秋田県立大学准教授)
建築計画部会	坂口 大洋 (仙台高等専門学校教授)
地方計画部会	小地沢将之 (宮城大学准教授)
建築史・意匠部会	飛ヶ谷潤一郎 (東北大学准教授)
施工部会	飯藤 将之 (仙台高等専門学校教授)
環境工学部会	長谷川兼一 (秋田県立大学教授)
建築デザイン教育部会	櫻井 一弥 (東北学院大学教授)
災害調査連絡会	佐藤 健 (東北大学教授)
津波に強い建築を活用した津波減災研究委員会 (任期付)	田中 礼治 (東北工業大学名誉教授)

東北支部会員数 (2021 年 3 月 5 日現在)

名誉会員	2 名
終身会員	68 名
正会員 (個人)	1,119 名
正会員 (法人)	35 法人
準会員	41 名
賛助会員	7 法人

支部監事

2021 年 6 月～2023 年 5 月
高橋 良子 (仙台市)
畠山 雄豪 (東北工大)

東北支部選出代議員

任 期	代 議 員
2020 年 4 月 ～ 2022 年 3 月	松本 真一 (秋田県立大学教授) 持田 灯 (東北大学教授)
2021 年 4 月 ～ 2023 年 3 月	姥浦 道生 (東北大学教授) 森山 修治 (日本大学教授)

支所長

支 所	支 所 長
青森支所	盛 勝昭 (株盛興業社 代表取締役)
秋田支所	松本 真一 (秋田県立大学建築環境システム学科教授)
岩手支所	小野寺哲志 (岩手県土木整備部建築住宅課総括課長)
山形支所	相羽 康郎 (特定非営利活動法人まちづくり山形理事)
福島支所	渡邊 佳文 (福島県土木部建築住宅課長)

一般社団法人 日本建築学会東北支部	自 2020 年 4 月 1 日 2020 年度事業報告 至 2021 年 3 月 31 日
-------------------	--

〈事務の部〉

総 会	1. 2019 年度事業報告・決算報告・会計監査報告 2. 2020 年度事業計画・予算案	2020 年 5 月 16 日 コロナ禍により中止 総会資料を HP に掲載
諸 会 合	総会 (1)、支部役員会 (8)、支所長会議 (1)、設計競技支部審査会 (1)、選挙管理委員会 (1)、作品選集支部選考部会 (1)、司法支援建築会議東北支部運営委員会 (3) その他部会など開催	() は回数
代議員半数改選	(留任) 岩田 司、浦部智義 (新任) 松本真一、持田 灯	2019 年 4 月～2021 年 3 月 2020 年 4 月～2022 年 3 月
支部長改選	(退任) 石川善美 (新任) 石田壽一	2018 年 6 月～2020 年 5 月 2020 年 6 月～2022 年 5 月
常議員半数改選	(退任) 浅野耕一、畑中 友、齋藤和哉、飛ヶ谷潤一郎、二科妃里 橋詰 豊、山岸吉弘 (留任) 相模誓雄、高橋良子、田村俊哉、畠山雄豪、濱 定史 原田栄二、山田義文 (新任) 一條佑介、菅野秀人、曹 森、手島浩之、西尾洗毅 西脇智哉、宮崎 涉	2018 年 6 月～2020 年 5 月 2019 年 6 月～2021 年 5 月 2020 年 6 月～2022 年 5 月
支 部 監 事	崎山俊雄、大橋佳子	2019 年 6 月～2021 年 5 月

〈支部事業〉

研究委員会	[部会名] [部会長] [研究テーマ] 構 造 : 前田匡樹 耐震補強技術における新しい試みに関する研究調査 材 料 : 石山 智 サステナビリティ確保に向けた建築材料からの取り組み 建築計画 : 坂口大洋 縮退社会における建築計画の課題抽出と実践化 地方計画 : 小地沢将之 小地域のエリアマネジメント 建築史・意匠 : 速水清孝 歴史的建築及び資料の保存・活用に関する研究 環境工学 : 長谷川兼一 東北地方の建築・都市の統合的な環境負荷削減のあり方に関する研究 施 工 : 飯藤将之 建築施工における技術継承と新たな展開 建築デザイン教育 : 櫻井一弥 東北地方の建築デザイン教育の質的向上に関する研究 災害調査連絡会 : 佐藤 健 東北地域における地震及び各種災害が発生した際の調査、広報に関わる 連絡や調整および関連事業の企画立案と支援 津波に強い建築を活用した津波減災研究委員会 (任期付) : 田中礼治	
本部・支部研究助成金による研究	・東北地方における公共施設等総合管理計画策定状況と施設集約化・複合化の基礎調査 建築計画部会 (研究代表者 坂口 大洋)	2020 年 4 月～2021 年 3 月
支部研究報告会	2020 年度第 83 回東北支部研究報告会 研究報告集第 83 号計画系・構造系刊行 発表題目 84 題	2020 年 6 月 20 日 コロナ禍により中止 CD-ROM 発行に代える
デザイン発表会	2020 年度第 6 回東北支部建築デザイン発表会 発表題目 10 題	2020 年 6 月 20 日 コロナ禍により中止 CD-ROM 発行に代える
支 部 主 催 支 部 共 催 イ ベ ン ト	1. 支部主催 1) 建築教育文化事業 建築文化週間事業 2) 第 40 回東北建築賞表彰式ならびに受賞記念講演会 4) 第 41 回「東北建築賞」(研究奨励賞部門と業績賞部門) 募集	コロナ禍により中止 賞状賞杯の贈呈をもって 表彰に代える 2020 年 6 月～7 月

	5) みちのくの風 2020 福島 ・第 83 回支部研究報告会 ・第 6 回建築デザイン発表会 ・エクスカーション「東北探訪 2020 福島県浜通りにおける 原子力災害からの復興」 2. 支部共催 ・第 40 回東北建築賞作品展示会	2020 年 6 月 20 日 コロナ禍により中止 CD-ROM 発行に代える コロナ禍により中止
研究部会主催	1. シンポジウム 2. その他、部会ごとに講習会・研究会・見学会などを適宜開催	
表彰	1. 第 40 回東北建築賞 作品賞部門 作品賞 5 点、特別賞 2 点 研究奨励賞部門 1 点 2. 日本建築学会設計競技支部入選者表彰 代表者 4 名 3. 日本建築学会功労者表彰 法人会員 2 社、個人会員 2 名、 4. 日本建築学会終身正会員 6 名の紹介 5. 日本建築学会新名誉会員 1 名の紹介	2020 年 5 月 16 日 コロナ禍により中止 資料を HP に掲載
支所活動	青森支所 ・全員協議会 秋田支所 ・第 49 回秋田県工業系高校生による建築設計作品コンクール 岩手支所 ・第 44 回盛岡市都市景観シンポジウム後援など 山形支所 ・支所事業 建築物の保全活用に関するワークショップ 福島支所 ・支所後援事業など	2020 年 7 月 2021 年 2 月 13 日 2020 年 11 月 18 日 2020 年 10 月 24 日 2021 年 2 月 6 日 2021 年 3 月 15 日～16 日
刊行活動	支部年報第 40 号発刊 東北支部研究報告集第 83 号計画系・構造系ならびに第 6 回建築デザイン 発表会梗概集 (CD-ROM) 発刊	2020 年 5 月 16 日 2020 年 6 月 20 日

〈支部共通事業〉

講習会	2020 年度日本建築学会支部共通「建築基礎構造設計指針」 改定講習会	オンデマンド配信
展示会	全国大学・高専卒業設計展示会 山形市、郡山市、八戸市	2020 年 6 月～2020 年 11 月
審査会	・2020 年度支部共通 日本建築学会設計競技 テーマ：「外との新しいつながりをもった住まい」 ・日本建築学会「作品選集 2021」東北支部選考部会	2020 年 7 月 2 日 オンライン 2020 年 8 月 オンライン

一般社団法人 日本建築学会東北支部	自 2021 年 4 月 1 日 至 2022 年 3 月 31 日
2021 年度事業計画（案）	

〈事務の部〉

総 会	1. 2020 年度事業報告・決算報告・会計監査報告 2. 2021 年度事業計画・予算案 3. 支部規程の改正	2021 年 5 月 15 日 オンライン開催
諸 会 合	総会 (1)、支部役員会 (9)、支所長会議 (1)、東北建築賞作品賞選考委員会 (3)、東北建築賞研究奨励賞選考委員会 (1)、東北建築賞業績賞選考委員会 (1)、設計競技支部審査会 (1)、選挙管理委員会 (2)、作品選集支部選考部会 (2)、研究部会連絡会 (1) 司法支援建築会議東北支部運営委員会 (3)、女性会員の会 (1)	() は回数
代議員半数改選	(留任) 松本真一、持田 灯 (新任) 姥浦道生、森山修治	2020 年 4 月～2022 年 3 月 2021 年 4 月～2023 年 3 月
支部長改選	(留任) 石田壽一	2020 年 6 月～2022 年 5 月
常議員半数改選	(退任) 相模誓雄、高橋良子、田村俊哉、畠山雄豪、濱 定史 原田栄二、山田義文 (留任) 一條佑介、菅野秀人、曹 森、手島浩之、西尾洗毅 西脇智哉、宮崎 渉 (新任) 坂口大洋、鈴木博之、高橋岳志、谷本裕香子、佃 悠 恒松良純、中嶋典之	2019 年 6 月～2021 年 5 月 2020 年 6 月～2022 年 5 月 2021 年 6 月～2023 年 5 月
支 部 監 事	高橋良子、畠山雄豪	2021 年 6 月～2022 年 5 月

〈支部事業〉

研究委員会	[部会名] [部会長] [研究テーマ] 構 造 : 前田匡樹 耐震補強技術における新しい試みに関する研究調査 材 料 : 石山 智 建築材料学教育における遠隔授業とその効果 建築計画 : 坂口大洋 縮退社会における建築計画の課題抽出と実践化 地方計画 : 小地沢将之 小地域のエリアマネジメント 建築史・意匠 : 速水清孝 歴史的建築及び資料の保存・活用に関する研究 環境工学 : 長谷川兼一 東北地方の建築・都市の統合的な環境負荷削減のあり方に関する研究 施 工 : 飯藤将之 建築施工における技術継承と新たな展開 建築デザイン教育 : 櫻井一弥 東北地方の建築デザイン教育の質的向上に関する研究 災害調査連絡会 : 佐藤 健 東北地域における地震及び各種災害が発生した際の調査、広報に関わる 連絡や調整および関連事業の企画立案と支援 津波に強い建築を活用した津波減災研究委員会 (任期付) : 田中礼治	
支部研究補助 費による研究	・ 建築材料分野における研究教育活動のオンライン化とその実践に関する 調査研究 材料部会 (研究代表者 石山 智)	2021 年 4 月～2022 年 3 月
支部研究報告会	2021 年度第 84 回東北支部研究報告会 研究報告集第 84 号計画系・構造系刊行 発表題目 56 題 2021 年度第 7 回東北支部建築デザイン発表会 発表題目 6 題	2021 年 6 月 19 日 オンライン開催
支 部 主 催 支 部 共 催 イ ベ ン ト	1. 支部主催 1) 建築文化週間事業 2) 第 31 回「東北建築作品発表会」の開催 3) 第 42 回「東北建築賞」の選考 4) みちのくの風 2021 山形 ・ 支部研究報告会 ・ 建築デザイン発表会	2021 年 10 月 2021 年 10 月 9 日 2021 年 10 月～2022 年 1 月 2021 年 6 月 19 日

	・特別企画事業 東北探訪 エクスカーション・シンポジウム『震災復興 10 年とこれからの 10 年：近未来の東北と建築学専門家集団の関わり方』 2. 支部共催 親と子の建築講座・建築文化週間事業	オンライン開催 2021 年 6 月 20 日 オンライン開催
	3. 女性会員の会 2021	2021 年 9 月～12 月 2021 年 4 月～2022 年 3 月
研究部会主催	1. シンポジウム 2. その他、部会ごとに講習会・研究会・見学会などを適宜開催	
表彰	1. 日本建築学会設計競技全国・支部入選者の紹介 2. 日本建築学会功労者表彰 個人会員 2 名 3. 終身正会員 9 名の紹介	2021 年 5 月 15 日 オンライン開催
支所活動	青森支所 ・全員協議会 ・講習会 秋田支所 ・第 50 回秋田県工業系高校生による建築設計作品コンクール 岩手支所 ・第 45 回盛岡市都市景観シンポジウム後援 山形支所 ・学協会ワークショップ 福島支所 ・親と子の都市と建築講座：福島市 ・後援事業	2021 年 7 月 2022 年 2 月 2022 年 2 月 2021 年 11 月 2021 年 11 月 2021 年 8 月
刊行活動	令和 3 年 2 月 13 日の福島県沖の地震災害調査速報 支部年報第 41 号発刊 東北支部研究報告集第 84 号計画系・構造系（第 7 回東北支部建築デザイン発表会込）CD-ROM 発刊 東北建築作品集（第 31 号）発行	2021 年 4 月 20 日 2021 年 5 月 15 日 2021 年 6 月 19 日 2021 年 10 月 9 日

〈支部共通事業〉

講習会	なし	
展示会	全国大学・高専卒業設計展示会 山形市、郡山市、八戸市で開催	2021 年 6 月～11 月
審査会	・2021 年度支部共通事業日本建築学会設計競技 課題「まちづくりの核として福祉を考える」 ・日本建築学会「作品選集 2021-2022」東北支部選考部会	2021 年 7 月 オンライン開催 2021 年 6 月～9 月 オンライン開催

法人・賛助会員

阿部建設(株)	(株)阿部重組
(株)工藤組	(株)三上構造設計事務所
(株)関・空間設計	千田総兵衛建築事務所
鹿島建設(株)	(株)本間利雄設計事務所+
(株)久米設計	地域環境計画研究室
(株)熊谷組	東日本旅客鉄道(株)
清水建設(株)	東北電力(株)
仙建工業(株)	一般社団法人
大成建設(株)	東北空気調和衛生工事業協会
(株)竹中工務店	八戸工業大学
(株)昴設計	クレハ錦建設(株)
戸田建設(株)	日本原燃(株)
(株)ユアテック	(株)楠山設計
西松建設(株)	(株)ティ・アール建築アトリエ
(株)安藤・間	(株)I N A新建築研究所
堀江工業(株)	(株)東北開発コンサルタント
前田建設工業(株)	山形県立図書館
(株)ピーエス三菱東北支店	日本大学図書館工学部分館
(株)三菱地所設計	東北芸術工科大学
(株)山下設計	仙台コンクリート試験センター(株)
(株)梓設計	
東日本興業(株)	